

再評価結果（平成30年度事業継続箇所）

担当課：道路局 高速道路課

担当課長名：伊勢田 敏

事業名	一般国道42号 湯浅御坊道路 4車線化		事業区分	一般国道	事業主体	西日本高速道路(株)
起終点	自) 和歌山県御坊市野口 至) 和歌山県有田郡有田川町天満			延長	19km	
事業概要						
<p>一般国道42号湯浅御坊道路は、和歌山県御坊市から和歌山県有田郡有田川町天満に至る延長19kmの高規格幹線道路であり、紀伊半島北西部における地域の連携強化や交流を促進するとともに、紀伊半島中南部地域と京阪神地域を結ぶネットワークを形成する自動車専用道路である。</p>						
H25年度事業化		H22年度都市計画決定		H26年度用地着手		H27年度工事着手
全体事業費		876億円		事業進捗率		15%
計画交通量		約11,600～約14,200台/日				
費用対効果 分析結果	B/C	総費用		総便益		基準年 平成29年
	(事業全体) 1.03	(残事業)/(事業全体) 410/559億円		(残事業)/(事業全体) 573/573億円		
	(残事業) 1.4	事業費：382/531億円 維持管理費：28/28億円		走行時間短縮便益：524/524億円 走行経費減少便益：32/32億円 交通事故減少便益：17/17億円		
感度分析の結果						
残事業について感度分析を実施						
交通量変動		B/C=1.5 (交通量+10%)		B/C=1.3 (交通量-10%)		
事業費変動		B/C=1.5 (事業費-10%)		B/C=1.3 (事業費+10%)		
事業期間変動		B/C=1.4 (事業期間-1年)		B/C=1.4 (事業期間+1年)		
事業の効果等						
<ul style="list-style-type: none"> <li>国土・地域ネットワークの構築(当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する)</li> <li>災害への備え(緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する)</li> <li>物流効率化の支援(農林水産業を主体とする地域から大都市圏への農林水産品の流通の利便性向上が見込まれる)</li> </ul> 他10項目に該当						
関係する地方公共団体等の意見						
[和歌山県]						
湯浅御坊道路は、暫定2車線区間として全国有数の交通量を有し、慢性的な渋滞や対面交通による重大事故の発生が深刻な問題となっているとともに、南海トラフ巨大地震など大規模災害時の緊急輸送道路となることから、4車線化は不可欠です。						
このため、今回意見照会のありました「対応方針(原案)」のとおり、事業を継続し、早期完成に努めていただきますよう、よろしくお願いいたします。						
なお、4車線化事業に着手されている近畿自動車道松原那智勝浦線御坊～印南間も同時に供用されるよう、着実な事業推進をお願い致します。						
また、印南～南紀田辺間についても、早期に4車線化の事業実施をして頂きますよう、併せてお願いいたします。						
事業評価監視委員会の意見						
「事業継続」とする対応方針(原案)については、了承された。						
<委員からの主な意見>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>当該区間において、大阪方面からの下り線では長距離走行により運転者は疲労を感じ始め、上り線では観光目的地からの帰路で疲れが蓄積している運転者が多いことなどから、運転者の安全走行の観点からも4車線化の早期実現が強く望まれる。</li> <li>南紀白浜空港は平成31年度に民営化予定で国際線チャーター便の就航が期待され、その際には外国人観光客を含めた観光客の主たる移動手段がバスであることから、定時性や利便性の向上の観点からも4車線化の必要性は非常に高い。</li> <li>暫定2車線区間の4車線化による便益の算定においては、課題となっている安全性の向上や交通渋滞の解消による便益のほか、当該道路のように路線特性から平日に比べ休日の交通量が多い場合、休日の交通量を考慮した便益の算定方法について、今後検討が必要である。</li> </ul>						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等						
<ul style="list-style-type: none"> <li>当該区間は、平成8年に完成2車線として全線開通。</li> <li>隣接する阪和自動車道(御坊～南紀田辺)の4車線化事業が事業中。</li> </ul>						

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・ 4車線の用地取得が完了し、暫定2車線にて供用中。残る2車線について本線工事を進めている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・ 暫定2車線にて供用中であり、残る2車線について本線工事の進捗を図る。

施設の構造や工法の変更等

- ・ 事業の進捗に合わせ、設計並びに施工計画等の精度を上げていくとともに、新技術・新工法の採用や現地の状況変化も確認しながら、コスト削減を図っていく。

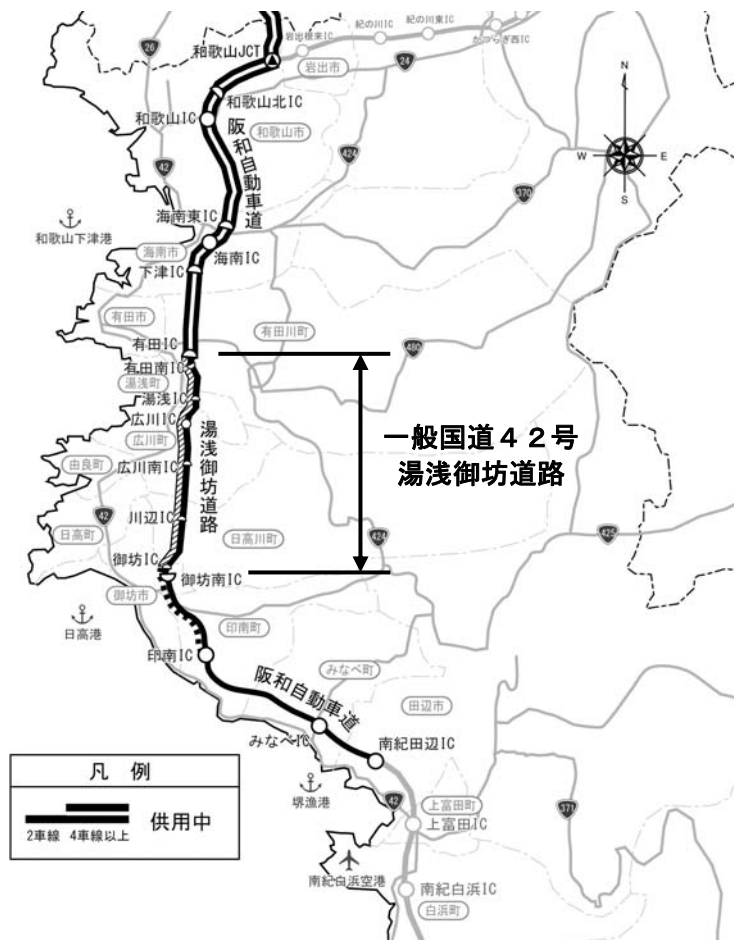
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。